

商学部協定校留学報告書(パリ商業高等学校)

留学期間：2016 年 08 月～2017 年 1 月

商学部 3 年

1. 出発前の準備

【留学の目的】

私は、幼少期に海外に住んでいた影響もあり、「将来は海外で働きたい」という漠然とした目標を持っていました。少しでも夢の実現に近づくために、何をすべきかと自問した際に、「考えるより、行動するべきだ」と考えて、留学することを決意しました。フランスへのこだわりが特別あったわけではありませんが、第二外国語としてフランス語を学んでいたこと、世界中の学生が集まって来る場所であり、多様な人と関わり合えることなど、様々な縁もありフランスのパリを留学先に選びました。

【学習計画・外国語能力】

正直なところ、大学 1 年次の時は留学するなど夢にも思っていませんでした。したがって、学習計画などと言った明確なものは持っていませんでした。ただ、日頃から英語の学習だけは継続的に行っていました。もちろん、当時は日常会話レベルすら満たしているかどうか分からない程でしたが、日常的に触れ続けていたことは確実に活きていると思います。

【留学費用・奨学金】

留学費用は、幼少の頃から貯めていたお金やアルバイトで稼いだお金に加えて、大半を両親に出してもらいました。協定校留学だったので、授業料は明治大学に納める分以外はかかりませんでした。奨学金は明治大学大学生外国留学奨励助成金として 10 万円、JASSO から 10 万円×現地滞在月分を支給して頂き、多くの部分をカバーして頂きました。

【VISA】

VISA 取得は苦労しました。必要な書類が多いです。早く申請することを強くお勧めします。出発の 3 ヶ月前には始めておいた方が余裕持って取得できると思います。少なくとも、私の周りの人は全員ギリギリでハラハラしました。また、フランス大使館の対応は早いとは言い難いです。それに加えて、夏季は大使館が混雑する傾向があり、予約が取りにくい状況です。余裕を持って出国準備するためにも、早めの取得を心がけて下さい。

【クレジットカード】

フランスはクレジットカード社会で、あまり現金を多く持ち歩かない傾向があります。したがって、クレジットカードは必要不可欠です。因みに、ビザカードとマスターカードは基本的にどこでも使えましたが、JCB カードの表示をほとんど見掛けませんでしたので、ご注意ください。また、何よりも大事なのがデビットカードです。現地の ATM からユーロを引き出すことができます。かなり重宝するので作って持って行かれることを強くお勧めします。余談ですが、私はクレジットカード 2 枚とデビットカード 1 枚を持って行きましたが、クレジットカードは 2 枚とも使用不可になりました。上限を越えたわけでもなく、今も原因不明です。デビットカードが無ければ相当危なかったです。何が起こるか分からないのが現実なので、まさに備えあれば憂いなしです。

2. 到着後の手続き

【OFII 移民局申請書】

私の留学は半期で、6 ヶ月未満の滞在だったので申請の必要はありませんでしたが、私の友人はその処理に苦しんでいました。しっかり提出しないと不法移民扱いになってしまう恐れがあるので気を付けて下さい。日本を出国する前に必要書類を整え、フランスで移民局に自分で郵送するそうです。詳しくは他の留学経験者の方々の報告書を参考にして下さい。

【住宅補助金 アロカシオン】

フランスには様々な補助制度があり、留学生にも適用してくれるものがいくつかあります。その一つがアロカシオンという家賃補助システムです。場所や住居形態によりますが 200～300 ユーロを国から補助金として頂けるものです。パリは特に物価が高くて生活費がかかるので、ぜひ申請してゲットして下さい。

3. 宿舎と日常生活

【住居】

ISC には、寮もホームステイ制度もありません。なので、基本的に自分で住居を見付けなくてはなりません。これもまた大変苦労しました。日仏文化協会で探すことも出来ますが、私はパリの日本人用の掲示板で探しました。「MixB フランス掲示板、ジモモフランス掲示板」などと検索すれば出て来ると思います。オーナーが日本人の場合も、オーナーがフランス人で日本人が仲介に入っている場合もなどがあります。直接フランス人から借りてみるロシアンルーレットのような攻め方をするのも良いと思いますが、確実に住居を見つけたい方はぜひ活用して下さい。

【日常生活】

本当に刺激的で楽しい毎日です。人、街並み、食べもの、遊び、観光地、美術館、スポーツなど、全てにおいて素晴らしいのがパリです。絶対に後悔しないと思います。日本と比較して、治安はそれ程良くないので、注意は必要です。実際に、私の友人で財布や携帯、キーケースなどを盗まれた人が多々いました。また、アジア系の人は、犯罪に対する意識が希薄なので狙われやすいです。私も何度か後を付けられていると気付くシーンがありました。しかし、日本が平和すぎるだけなので、基本的には外国はどこもそうだと思います。最低限の対策と意識をすれば大丈夫だと思います。

4. 協定校のカリキュラム・履修した授業、課外活動、留学の成果

【講義】

ISC で開設されている講義は、フランス語のものと英語のものが約半分ずつです。また、留学生もたくさんいます。講義形式は様々ですが、基本的には少人数でプレゼンテーションを中心に進めていくものが多いです。また、課題も莫大な量が課される時が多いです。日本の文系学生にとっては、信じられないレベルだと思います。100 ページくらいの大量の資料を配布され、「次までにまとめて発表してね。」など正直良く分からない展開が何度もありました。最初こそ戸惑いがありましたが、少しずつクリアして行く度に自分自身の成長を感じられたのもまた事実です。学問的なこと以外にも実りの多い講義ばかりでした。

【友人】

フランス人を始め、諸外国の人たちはとてもフレンドリーです。その中でも、私は本当に周りの友人に恵まれました。彼らは親切で、エネルギーで、何事に対しても貪欲で、すぐに手を差し伸べてくれる人たちばかりでした。帰国後も連絡を取り続けている友人も多く、つい先日友人の一人が日本に来たので会ってきました。今後も、関わり合いを持ち続けたいと思っています。

【留学の成果】

一言で留学の成果を述べることは難しいですが、語学力など学問的な面での成長は もちろんですが、精神的にも大きく成長できたと思います。留学中の一つ一つの経験が、様々な場面で生きてきます。意外かもしれませんが、海外で生活すると日本が好きになります。「本当かよ…」と思った方もいらっしゃるかもしれませんが、本当です。自国文化に誇りを持てるようになります。というより、誇りを持ってないことを恥ずかしく思うようになります。これはあくまでも一例ですが、今まで当たり前と思っていたものが根底からひっくり返されることが多々あります。その経験は新鮮で、刺激的であり、物事に対する視野が爆発的に広がります。

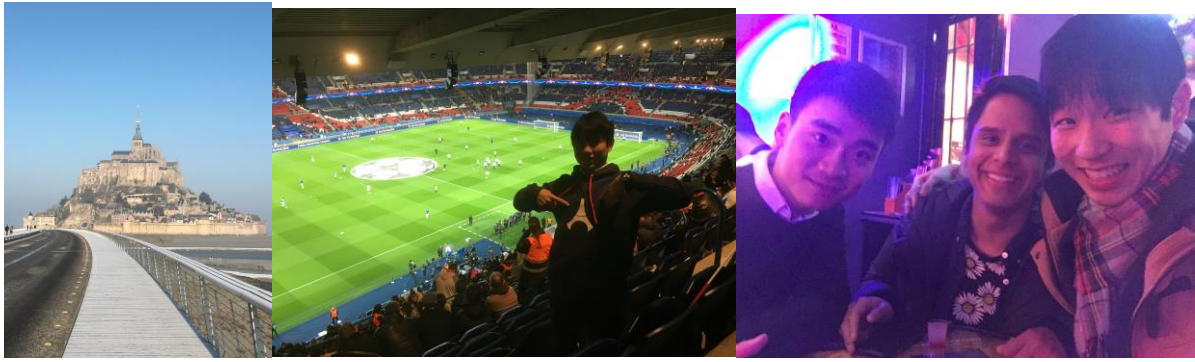
5. 帰国準備と帰国後の手続き

私は、郵便局で口座を開設しましたが、またパリに行く機会があると勝手に思い込み、そのまま残してきました。また、現地ではプリペイドを利用して携帯を使っていたので特に解約手続きもせずに済みました。お土産を買い過ぎたせいで荷物がスーツケースに入らなかったのも、パリの中心部にある黒い猫の宅急便さんに荷物の配達をお願いしに行っただけです。パリは何でもあるので便利です。

6. 商学部学生へのメッセージ

この報告書を読んで頂いているということは、少なからず留学に興味を抱いていることと思います。是非その考えを行動に移してみてください。お金のこと、治安のこと、勉強のことなど、留学を実現するために越えなければならない壁がたくさんあることは事実だと思います。しかし、目の前にあるチャンスをぜひ掴んでください。正直、この報告書だけで留学の魅力は伝えきれないと思っています。生まれも育ちも全く異なる人々と、言葉や文化の壁を越えてコミュニケーションをとる、議論する、お酒を飲む、冗談を言い合う。言葉で伝えきれない程の楽しさ、嬉しさ、そして難しさがあります。その素晴らしさをぜひ、ご自身で体験してみてください。もし何か疑問点や相談事がありましたら、私で良ければお話させて頂きたいと思います。また、この場を借りて、私が留学することに協力し、支えてくれた、家族、教授、友人、事務室の方々、ISCの教授の方々や友人、明治大学関係各位の皆さまにお礼申し上げます。ありがとうございました。





左上から順に、

- ①友人宅でのプレゲームという飲みに行く前にお酒を飲んだ時
- ②ISC の学生団体主催の留学生歓迎イベントの帰り道
- ③年越しカウントダウン時の凱旋門
- ④モンサンミッシェル
- ⑤パリサンジェルマンの試合観戦
- ⑥危険なバーに初参戦